

# PRESS RELEASE

## 高齢者居住安定化モデル事業がめざすもの ～選定プロジェクトにみる高齢者居住の新たな取り組み～

株式会社長谷工総合研究所（東京都港区、社長：相川 博）では、表題のレポートをまとめました。  
レポートの全文は、3月25日(木)発行の『CRI』4月号に掲載いたします。

高齢者の居住の安定確保に関して先導性・モデル性の高い提案事業に国が補助金を出す「高齢者居住安定化モデル事業」が2009年度から始まった。本特集では、このモデル事業の仕組みと採択された事例の特徴、2010年度に新たに始まる「高齢者等居住安定化推進事業」を解説し、今後の高齢者居住に何が求められているのか方向性を探った。

### 先導性のある高齢者住宅や生活支援システムなどに国が助成 ～09年度は47件を選定～

- 「高齢者居住安定化モデル事業」（以下、「モデル事業」）は、高齢者向けの住宅に関する先導的な技術・システムの導入や、高齢者向けの生活支援・介護サービスが効率的・効果的に提供される住まい・まちづくりへの取り組みなど、高齢者の居住の安定確保に関する先導性・モデル性の高い提案について国が支援するというものである。選定された事業には、建設工事費や技術検証費などの一部が助成される。
- 2009年度は2回の募集に対して合計184件の応募があり、47件が採択された。採択事例の特徴としては、①介護・医療サービスと連携した高齢者住宅の整備、②地域におけるケア体制の構築、地域の活性化、③協働型居住（グループリビング等）の試み、④バリアフリー住宅の供給体制の構築、⑤既存建物の活用による高齢者の居住の場、地域福祉拠点の整備——などが多かった。

### 2010年度は障害者や子育て世帯もモデル事業の対象に ～高齢者のみならず「共生型居住」も視野に～

- 2010年度は、モデル事業と「高齢者等居住安定化緊急促進事業」\*が統合され、新たに「高齢者等居住安定化推進事業」（以下、「安定化事業」）の名称で行われる。障害者の地域生活への移行や待機児童の増加なども踏まえ、提案事業の対象には障害者世帯と子育て世帯も新たに追加されることになった。  
\*高齢者等居住安定化緊急促進事業：公的賃貸住宅の整備にあわせて、高齢者生活支援施設、障害者福祉施設、子育て支援施設を整備する事業に対し、国が緊急的な助成を行うというもの。
- 2010年度の安定化事業では、先導性がなくても一定の要件を満たしていれば、サービス付き高齢者専用賃貸住宅や既存住宅のバリアフリー改修工事にも、新たに補助金が付くことになった。

### 選定プロジェクトにみる高齢者居住の方向性 ～地域資源も積極的に活用し、生活の安心・安全を確保～

- 2009年度モデル事業で採択された事例の特徴や傾向を分析し、今後の高齢者居住に何が求められているのか、その方向性を考察した。
  - ①地域での継続居住の仕組みづくり：多くの高齢者が望む「住み慣れた地域で長く住み続けたい」というニーズに応えるために、地域の福祉拠点となる高齢者住宅やサービス施設などの整備が求められる。
  - ②生活支援サービスの提供：高専賃などの整備では、バリアフリー対応や良質な設備、安心・安全確保のための機器類の導入が重要となる。ソフト面では、見守りや安否確認、緊急時対応、食事、介護、医療サービスを利用者のニーズにあわせて柔軟に提供できる仕組みを整えることが求められる。なお、2010年度安定化事業では、一定要件を満たす高専賃に戸当たり100万円等の上限基準で補助金が付く。
  - ③新たな見守りシステムの確立：高齢者の見守りサービスについては、一事業者だけではなく複数事業者の連携・提携による、見守り以外のサービスも包含した新たな提案・実践が必要である。  
➡本特集レポートでは、ハウスメーカー等7社の企業連合による提案（緊急通報を軸に、駆け付け対応、外出支援、配食、日常軽作業など10の介護保険外サービスを統合した生活支援事業）を詳しく報告している。
  - ④バリアフリー改修の促進と質向上：既存住宅のバリアフリー改修では、設計・工事の専門家だけでなく、ケアの専門家（医師、看護師、OT、PT等）の参画と連携による共同作業が求められる。なお、2010年度安定化事業では、こうした連携の下に実施された改修工事・改修計画費に一定の助成が行われる。
  - ⑤情報提供とコンサルテーション：高齢者の住まいに関する情報を高齢者に対していかにわかりやすく伝えるかも重要な課題となる。受け手が身をもって体験・理解できるような場や仕組みづくり、コンサルティングやカウンセリングなども視野に入れていくべきである。  
➡本特集レポートでは、ガス事業会社による提案（高齢期の住宅内の不便さや危険、認知機能の低下した状況などをショールーム等の場で実際に体験・理解できるプログラムの開発）を詳しく報告している。

